

第166回 音楽のまちづくり ロビーコンサート

出演 篠笛：岸田 晃司 (きしだこうじ)

曲目 星河 (狩野嘉宏)

楽 (能楽古典)

春の海 (宮城道夫)

結火 (岸田晃司)



2016年 1月20日(水)
12時20分から50分まで
藤沢市役所新館 1F ロビー

主催：トライアングルコンサート・公益財団法人藤沢市みらい創造財団 芸術文化事業課
問合せ先：公益財団法人藤沢市みらい創造財団 芸術文化事業課 0466-28-1135

出演者プロフィール

岸田 晃司 (きしだ こうじ)

神奈川県藤沢市出身。

幼少の頃から地囃子連に所属し、太鼓と笛を習得。

洗足学園音楽大学に入学、作曲や編曲を学ぶ。

その後、横笛奏者の狩野嘉宏氏より独奏篠笛の手ほどきを受け、演奏活動を開始。

和の表現を基軸としながら様々な楽器などとのセッションも行い、モンゴルやイギリスでの海外公演、講師指導など幅広く活動。

農業経営者という顔も持ち、めぐる日本の四季の中日々土に触れる事で培われた感性によって、日本の土地の空気や匂いを肌で感じられる笛の響きを奏でる。



日本伝統の楽器 篠笛と能管について

篠笛 (しのぶえ)

篠竹に孔を空け漆を塗っただけの簡素な横笛。古くから全国各地の民俗芸能や祭囃子などに欠かせないものとして、庶民に親しまれてきた。音色は美しく、かつ軽快で素朴。主に祭囃子で使われる「古典調」と、ドレミ音階で西洋楽器とのアンサンブルも可能な「唄物(唄用)」とがある。祭囃子はもちろん、歌舞伎の舞台でもその音色を聴く事が出来る。

能管 (のうかん)

能楽の伴奏楽器である四拍子(能管、小鼓、大鼓、太鼓)の中で唯一の旋律楽器である横笛。唄口から指孔までの間に「喉」と呼ばれるもう一つの竹管が挿入されており、これによりいわゆる「音痴」な独特の音階と鋭い音色を持つが、これこそが能の「幽玄の世界」を表現出来る最大の要素である。素材は囲炉裏で長い年月燻された煤竹が最良であるとされ、構造は喉の他、巻き、頭部分の鉛、蟬、銀栓など複雑。能楽の他、篠笛と共に歌舞伎の舞台で聴く事が出来る。

次回の
ロビーコンサートは... ピアノ：伊礼清子

2016年3月16日(水)12時20分から50分まで

藤沢市役所新館 1F



ロビーコンサートオーディション

開催日：2016年3月9日(水)11時00分開演予定

場所：藤沢市民会館小ホール

平成28年度もロビーコンサートを開催いたしますので、どうぞご期待ください。